
10代目ファミリーと最強のヒットマン、幕末に参上!

彩斗。

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

10代目ファミリーと最強のヒットマン、幕末に参上！

【Nコード】

N0069Z

【作者名】

彩斗。

【あらすじ】

未来での白蘭との激闘を終え、無事平和な過去に返ってきた綱吉達。そんな時、いきなり幕末にトリップしてしまっ…！！？
10代目ファミリーが幕末で大暴れ！

プロローグ（前書き）

！注意！

- ・この小説は薄桜鬼とリボーンの混合小説です（、・ω・、）
- ・作者の突然すぎる思いつきから始めますので色々おかしいです
- ・主人公は10代目ファミリー達とリボーンです
- ・REBORN！↓薄桜鬼にトリップします
- ・バットエンドフラグはとことんへし折ります！↑オイ
- ・そしてリボーン知らない人にはよく分からない内容です

薄桜鬼メンバーを幸せにシたくて始めた小説です。

そっけの苦手な人にはこの小説はオススメできません（、・ω・、）

トリップするメンバーは

沢田綱吉ノ獄寺隼人ノ山本武ノ笹川了平ノランボノクローム髑髏（六道骸）ノ雲雀恭弥ノリボーン

時間軸は未来編が終わったあたりです。
では長くなりましたがどうぞ！

綱吉視点です

プロローグ

拝啓、母さん。

大変な事になりました。

俺――幕未来ちゃいました…

「Σ未来の次は過去かよーっ!？」

「うるせえぞツナ」

「いてっ!」

事は少し前にさかのぼります…

*

「ぎゃはははは！ランボさんのお通りだー！」

「お、おいランボ！騒ぐなよ！」

「アホ牛！十代目を困らすんじゃないねエ！」

「ハハハ！皆元気なのな」

「お前らうるせえぞ」

俺は獄寺君、山本、リボーン、ランボの5人で並盛商店街に来ていた。

今日、学校が終わって山本が

「久々にゲーセン行かね？」

と言いだしたのがきつかけだ。

俺らは未来でミルフィオーレと…白蘭と闘った。

ユニや^{ガンマ}Yのおかげで俺らは白蘭を倒し、平和な過去へ帰ってこれたんだ。

それを実感するように俺達は毎日のように遊んだ。

俺の家で遊んだり、今みたいにゲーセンに行ったり…未来に行くまでは普通に思えてたけど、こんなにも大切な時間だったんだと実感したんだ。

もう何も起こりませんように…、

もう誰も巻き込みたくない。

京子ちゃん、ハル…ランボにイーピン達だって…もう戦いに巻き込みたくない！

俺はそう思っていた。

「あれ…？」

「っわ！や、山本？どうしたの？」

先頭を歩いていた山本がいきなり足を止めたため、ボーッとしていた俺は気付かず、背中にぶつかってしまった。

「あ、わりいツナ…」

「オイ野球バカ！何してんだ！」

「あんさ…俺ら以外に此処
…？」
人いなくね

「え…」

周りを見渡すと確かに人がいない。

「おかしいな…さっきまでたくさんいたはずだったんだけどな」

「ああ…」

「……嫌な予感がしやがる」

リボーンがそう言ったその時、

「くぴゃ!？」

「ランボ!？」

突然ランボの体が透けはじめたんだ。

「じゅ、十代目!」

「ツナ!」

「っ…みんな!」

見ると獄寺君達の体も透けてきている。

そして俺も…

「う、うわあああああ!」

そこで俺の意識はなくなった。

*

気付いたら道のど真ん中に俺らは倒れていた。

なんなんだよ本当に…。

「にしても…此処は本当に幕末なんですかね…」

「多分な…さっきのヤツが嘘を言ってるとは思えねえ」

俺らが気が付いたのはついさっき。

目を開けるとそこには時代劇のセットのような街並みが目の前に広がっていた。

さっきまであった太陽は沈み、代わりに月が昇っていて、辺りを煌々と照らしている。

俺らは夜まで此処に倒れていたのかな…？

で、でも此処…並盛商店街じゃないよね…？

疑問ばかりが頭を巡っていた。

そんな時、着物を着ていて鬘まげを結っている、まるで時代劇の登場人物のような男性がこちらを物珍しそうに見ながら歩いてきた。その人にリボンが「今の年号を教えてください」と聞いたのだ。男の人は流暢にしゃべる赤ん坊にビックリしながらも、

「今は文久だよ」

と答えた。

この言葉を聞いたとき俺はよく分からなかった。

勉強がまるつきりダメ（てゆうか運動も全部ダメだけどさ…！）な俺には聞きなれない単語だった。獄寺君に聞いてみると、「幕末あたりです十代目」と言われやっとな気が付いた。

——ああ…俺タイムスリップしちゃったのか、と…

そして冒頭にいたる…

「ツナ―此処何処なんだもんねー？」

「幕末だよ…」

「ばくまつって何ー？」

「ば、幕末ってのは…「オイお前ら何やってる！」…え？」

後ろからいきなり声を掛けられ振り向くと、そこには浅葱色の羽織を羽織ったすごいイケメンのお兄さんが3人。

しかも…

「刀…!!?」

その手には刀が握られていた。

「もう一度聞く…お前ら何をやっている？逃げるなよ…俺ら新選組から逃げられると思ったら大間違いだぜ」

黒い髪の男の人が此方に刀を向けながらそう言い放った。

え、てゆか新選組…？

「ハアアアアアアアアアア!?!?」

俺と獄寺君と山本の声が辺りに木霊した。

「こりゃやべえな」

「くぴゃ？」

母さん…俺…やっぱり幕末に来ちゃったみたいです…

プロローグ（後書き）

すいません、プロローグめっちゃ適当で…

リボーンも薄桜鬼も大好きでついついやりたくなっただんです（*、*）↑オイ

ggggな予感がしますがお付き合いください！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0069z/>

10代目ファミリーと最強のヒットマン、幕末に参上!

2011年11月30日16時54分発行